

自己評価結果公表シート

【法人理念】

「大慈愛心」親が子に抱くような慈しみ愛する心
大きな慈愛の心をもって皆様と向かい合います。

【保育理念】

「仏教」を基本理念とし、子ども一人一人を大切に、保護者からも信頼され、地域に愛される園を目指します。

【保育目標】

「健やかな心」を育てるために

- | | |
|-----------------------|--------|
| 1. めぐみの心を持ち、命を尊重する子 | 《生命尊重》 |
| 2. 善悪を見極め、絶えず正しい方に進む子 | 《修善》 |
| 3. 自分の立場を考え、他と協調できる子 | 《協調》 |

【評価項目の達成状況】

No	評価項目	職員の自己評価ポイント平均 (3点満点)
1	社会福祉法人 三宝会の理念「大慈愛心」	2.44
2	園の保育理念「仏教（生命の尊重）（修善）（協調）」	2.37
3	様々な環境を考慮し、選択肢などを与え、子ども自ら考える機会を作り「子どもの主体性を育む環境づくり」。	2.42
4	子どもの生活、遊びを考慮し、「子どもが安心して過ごせる環境づくり」。	2.42
5	一斉保育と違い、ひとり一人丁寧に接していく「乳児保育担当制」。	2.55
6	「あそび」の中にすべての要素が詰まっていると考え、非認知能力の育成を最優先にしている。	2.36
7	「行事」は子どもが成長するために必要だが、年齢、発達にそぐわない過度な行事をおこなわない。	2.72
8	集団生活の中で一人ひとりを把握し、個性に応じた温かい保育をしている。	2.52
9	施設の設定・環境は、教育・保育にふさわしい状態である。	2.54
10	クラスのおたよりは分かりやすく説明している。	2.45
11	おやこんぼ（ノーメディア）について理解している。	2.64
12	幼児期に育ててほしい10の姿について理解している。	2.18
13	幼保小の架け橋プログラム（アプローチカリキュラム、スタートカリキュラム）について理解している。	2.04
14	気軽に相談できる雰囲気づくりを心掛けている。	2.25
15	保護者の要望や問い合わせに対して、園からの説明や対応は礼儀正しく対応できている。	2.30
16	担任・担当から長時間保育担当の職員に、園児についての連絡など引き継ぎができています。	2.59
17	子どもに対し、主体性を尊重し自己決定を促す態度で接している。	2.48
18	子どもに対し、ポジティブな態度で接している。	2.54
19	子どもに対し、客観的で公平な態度で接している。	2.65
20	子どもに対し、相手に合わせた応答的な態度で接している。	2.50
21	子どもに対し、自律的で主体的な態度で接している。	2.46

【給食・食育アンケートを通じての感想】

「家庭では苦手な食材や料理を給食では食べられている」と言う声も多く、味付けを気に入ってくれている園児も多いため、今後も園児が食べやすい野菜の調理法、薄味の味付けなど心掛けていきたいです。お箸を早くから使わないということが、お箸が上手になることに繋がっていると実感されている方もいて、日頃行っているスプーンの持ち方を大切にしていきたいと再確認できました。

食事での困り事について、毎年「偏食」と答える保護者が多いので、一口でも味を感じられるよう、日々の声掛けが大切だと思います。また、ただ声掛けをするのではなく、遊びの中で絵本や実際に育てるといった経験の積み重ねも大切だと改めて思いました。

メニュー表を多くの方が見ているということがわかり、食への関心が高いことを感じました。給食を美味しく食べられるように、充実感や満足感を感じられるような遊びを計画、実践していきたいと思えます。

卒園してからも、あゆみ園の給食のことを覚えていることを嬉しく思いました。楽しい、美味しく食べることが豊かな食に繋がる様、引き続き丁寧に援助していきたいです。

多くの保護者が、あゆみ園の給食を理解してくれてうれしと感じました。いろいろな食べ物が食べられるようになったという感想も多くあり、「最初は食べられなくても慣れていく」という経験の大切さを感じました。作るだけでなく、喫食時の先生方の声掛けなど、給食と保育者の両方の力であり「食べる事が食育」という事に今後取り組んでいきたいと思えます。

少量の子どもが、一定量食べられるようになったり、苦手なものが食べられるようになったりと一人一人、食を通して成長している姿が見られ嬉しく思えます。子ども達の姿から食育の大切さを改めて学びました。これからは、子ども達の笑顔が絶えない給食を目指していきたいです。

【保育活動アンケートを通じての感想】

保護者からの意見で、話しかけにくい雰囲気があるとのことだったので、笑顔を忘れず、手を止めて、丁寧な対応を心がけたいです。

保護者が子どもを迎えに来た時間、親子共々笑顔で降園できる様、その日にあったことを簡潔に日々保護者へ伝えてきました。別のクラスの子どものエピソードは対応できないことが多いが、温かく笑顔で対応することは徹底していこうと思えます。

保育活動アンケートを通して、自分の普段の保育を見直す機会になりました。

担当の子どもではなくても、日中の子どもの様子を少しでも保護者に伝えていきたいと思えます。

全体的にあゆみ園の保育方針を理解されている家庭が多い中で、登降園時の職員対応への不満や行事への意見などもありました。すぐに改善できるものは対応を考えなければならないと感じました。行事に関しては可能な範囲で対応を考え、数少ない行事ではありますが、まずは子ども達が楽しく良い経験ができる環境を考えていき、保護者の方の貴重な意見も少しでも取り入れられたらと思えます。

園で遊んでいる事を、家庭でも遊んでくれているようで嬉しく思いました。

保護者の方からの「いつもありがとうございます」の言葉が励みになりました。

様々な意見があるので、しっかり受け止めなければいけないと思えます。日頃からの保護者とのやりとり、コミュニケーションを大事にし関係性をしっかり作っていかなくてはならないな、と改めて感じました。

先生方に対して感謝の言葉や温かい感想を頂き、子ども達みんながあゆみ園に来たら笑顔になれる雰囲気、挨拶、笑顔、声掛けを忘れずに過ごしていきたいと思えます。

年々、あゆみ園の方針や保育者を信頼して頂いている様子が感じられ嬉しく思いました。今後も、丁寧な保育や関わりを心がけていきたいと思えます。

保護者の方々からの感謝の意見は何度読んでも嬉しくて、誇りに思えます。自分のクラスでなくても同僚が褒められることにさえ喜びを感じます。日々、自分の力のなさに落ち込むことが多いですが子どもたちの笑顔、保護者の方々への感謝を忘れずに取り組んでいきたいと思えます。

たくさんの保護者の方がお子さんの成長を感じ、あゆみ園の保育に対して満足されていることに安堵するとともに、これからもその満足を維持できるように保育していかなければいけないと気が引き締まる思いをしました。アンケート結果に満足せず、これからも保育の質を高めていきたいと思えます。

【職員の自己評価をふりかえり】

自己評価。職員各自が自分自身の能力や成果、行動などを客観的に振り返って、自己の評価をしました。この職員による自己評価は年に1回ですが、日々の保育、クラス運営では、毎日振り返りがおこなわれています。今、子どもたちは、どんな発達段階なのか。何に興味を示しているか。そこから、どんな遊びへ展開していくか。そして、子どもたちがどんな学びを得るのか。予想し、それが外れれば新たな予想を立て、それに合わせた環境づくりを考えます。職員は子どもたちのために、常に振り返りを続けなければなりません。「明日はこの続きをやる」「あれをこうしたら、もっとできるかもしれない」子どもたちが、明日に見通しや期待を持ち、毎日楽しく過ごせるように。また、保護者の皆さまが毎日安心して子どもを預けられるように努めて参ります。

今後ともご理解、ご協力の程よろしくお願ひいたします。

園長 野中徹